



## 経済学部創立30周年記念式典・祝賀会 来賓・学内外関係者多数出席され大盛況

昨年11月27日(日)経済学部30周年記念祝賀会が名古屋ヒルトンホテル「金扇・銀扇の間」で開催された。

式典・祝賀会には来賓として西尾市長を始め市当局・市議会・名大・県大・経済界等多数の関係者、並びに前学長、名誉教授、歴代事務局長、医学部・薬学部同窓会会長、同窓生、他多数の大学関係者、総勢約400名の方々が出席され、会場は終始熱気に包まれた。

前半、金扇の間で記念式典が開催され、主催者を代表して宮川経済学部長の式辞、伊東学長の挨拶、西尾市長・工藤市会議長・塩澤県大学長の来賓祝辞があった。

後半、会場を銀扇の間に移し、加藤美紀CBCアナ(21期生)の司会による記念パーティが開催され、前田瑞山会会長の挨拶に続き、中産連専務理事 竹内弘之氏、名大経済学部長 牧戸孝郎氏の挨拶の後、牛嶋正、松井哲夫、木村吉男、松永嘉夫の各名誉教授が鏡割りを行ない乾杯の音頭をとった。

医学部・薬学部同窓会会長の祝辞、来賓の挨拶に続き、歌手東山彩さん(21期生)の歌とアトラクションでパーティは最高潮に達した。

祝賀会は大盛況を極め、西尾市長他来賓の皆様が最後までパーティを満喫され、名残惜しくも、近藤瑞山会副会長の挨拶により3時間に亘る記念式典・記念パーティの幕を閉じた。

# 西尾名古屋市長を始め 多数の学内外関係者を迎え 祝賀会は大盛況!!

主催者挨拶  
経済学部長  
宮川淳

本日は名古屋市立大学経済学部創立30周年記念式典に、多数の皆様がご参集くださりまして、ありがとうございます。

私共の経済学部は、高度経済成長の中で、地元の経済界を始め各界各層の強い要望により、昭和39年に創立されました。

創立当初は、学生定員150名、専門課程の専任教員は教授1、助教授4、講師2、の計7人でした。創設以来これまでに社会に送り出した学生は累計4974名になっております。

この30年間に本学部は着実に成長、発展いたしてまいりました。これも、諸先輩の並々ならぬご努力の賜であり、これまでの発展を支えてくださいました市当局、市議会、経済界、その他関係各位に対しまして心から感謝を申し上げる次第であります。

30年をもって、1世代とするならば、われわれはいよいよ第2世代に入ったこととなります。この30周年を契機として次の発展をはかる経済学部のあるべき姿を構想し、市民に開かれた大学、高度情報化社会に対応した教育体制と国際的視野を広める教育研究体制の構築、時代の要請に適合した人材の育成をめざしていきたいと思っております。

今後とも、関係者の皆様のより一層のご協力をお

名古屋市立大学



願います。以上をもちまして私の式辞といたします。ありがとうございました。

(要旨抜粋)

学長挨拶  
名市大学長  
伊東信行

本日はご多用のところ、このように多くの方々にご列席いただきまして、心より厚く御礼申し上げます。

日本は今や経済大国に発展いたしました。世界は、アメリカのNAFTA、ヨーロッパのEU、わが国を中心としたアジアの国々、この間で三極構造が進んでいると聞き及んでおり、アジアのこれからの発展は確実であろうと思っております。アジアの中の日本、その中央に位置する愛知県、その中の名古屋市の発展は、確実と信じております。

名古屋市立大学は、名古屋市立女子短期大学及び名古屋市立保育短期大学の統合によって、医・薬・経済学部のほかに新たに人文社会学部、芸術工学部が新設され、5学部になって更なる大きな市立大学としてスタートするのが間近でございます。

経済学部の発展は、名古屋市の、中部の、日本の、アジアの、世界の経済の発展に必ず繋がるものと信じています。

市当局、あるいは関係各位の一層のご支援をお願いいたしまして、私のご挨拶に代えさせていただきます。どうもありがとうございました。(要旨抜粋)



来賓祝辞  
名古屋市長  
西尾武喜



名古屋市立大学経済学部が創立30周年を迎えられましたことを心からお祝いを申し上げます。

今日、日本の経済は景気・円高動向、貿易摩擦、製造業の空洞化、産業構造の変化などさまざまな課題に直面しており、こうした中で名古屋市立大学経済学部は、多種多様な課題に的確に対処され、指導的立場の人材を育成しながら、地域経済・地域社会の発展に寄与してゆくことが、強く求められると考えています。

また、地域に開かれた大学として、毎年開催されている市民への公開講座、社会人大学院などが、産業界をはじめ多くの方々から多大な評価を得ており、まことに喜ばしい限りでございます。今後とも、地域により密着した大学として、市民の皆様方の学習意欲の高揚を図り、文化の活性化を促すことでも大きな役割を果たしていかれることを期待しています。

また名古屋市立大学は平成8年の4月には現在の3学部に加えまして、人文社会学部・芸術工学部を加えた5学部の総合大学として歩み出すわけで、こうした中で経済学部が時代の変化や多様なニーズに応えるとともに、学術文化の中心として地域の活性化の推進力となり、市立大学の発展に寄与されることを願ってやまない次第であります。

最後になりましたが、経済学部ひいては市立大学全体のみまますのご発展と、本日お集りの皆様方のご健勝ご活躍を祈念し、お祝いの挨拶とさせていただきます。まことにおめでとうございます。

(要旨抜粋)

名古屋市議会  
議長  
工藤恭弘



名古屋市は、水はNo.1で一番うまい木曾川の水を飲んでおりまして、65才になれば地下鉄・市バスはただ、68才になれば医者もただ、そして、八事斎場もただ、全てただで、非常に福祉が安定しておるわけでございます。それだけ名古屋というのは捨てたものではないわけございまして、確かに経済力は弱いのですが、住みやすいところです。

市立大学は30年で卒業生が5000人しかいません。日大は両国国技館での卒業式に、表で卒業証書を受け取るのを待っているのですから、その点、市立大学の生徒は非常に恵まれています。しかし恵まれた以上、名古屋市も投資しておるのですから、今後、一生懸命名古屋市政の進展のためにご尽力願うことをお願いいたしまして、30周年の祝辞といたします。おめでとうございます。

(要旨抜粋)

●前学長 蜂須賀賛悦氏



●医学部同窓会会長  
高山光子氏



●薬友会会長代理  
副会長 久田金吾氏



●中部産業連盟専務理事  
竹内弘之氏



●名古屋大学経済学部長  
牧戸孝郎氏



来賓祝辞  
愛知県立大学長  
塩澤君夫

名古屋市立大学経済学部30周年まことに  
おめでとうございます。

名市大経済学部はこの30年間に、地域の経済界や行政に対しても様々な貢献をされておりましたし、また非常にたくさんの有能な人材を育成されており、常々、敬意を表しているところでございます。

名古屋市立大学の経済学部は非常に先進的な役割を果たしておられ、昼夜開講制の社会人大学院は全国的にも先駆的なものであったと思います。このような生涯教育の上での市立大学の大きな役割というものを見ながら、私も公立大学の者として市立大学に学びつつ、これからこの問題を一層進めて行かなければならないと考えております。

市立大学に学びながら、また市立大学と手を組んで、地域に対する公立大学の役割というものについて真剣に取り組んでいるところでございます。

この30周年のお祝いにあたりまして、市立大学とともにこれからも地域のために、あるいは世界のために研究と教育を一層進めていきたいというふうに考えております。本日はどうもおめでとうございます。

(要旨抜粋)



●花束贈呈を受ける(左から)星野、中居、大山、松永、木村、牛嶋、松井の各先生方



●牛嶋、松永、松井、木村の各先生方と前田瑞山会会長、宮川経済学部長による鏡割りの様子



●司会の加藤美紀さん(左)と歌手の東山彩さん(右)



●盛会だった祝賀会風景



東海総合研究所

# 水谷研治氏記念講演

この30年の日本経済の発展は素晴らしいものでした。しかし、60年代の経済成長率は16.6%であったものが、70年代には12.6%、80年代には5.8%、そして90年代には2%程度の水準と急落しています。



今日はこれからの日本経済はどうかについてお話しをしてみたいと思います。

まず、これからの日本経済を見るには目先の問題と将来の問題とをはっきりと認識する必要があります。目先の問題を解決するために問題を先延ばしにし将来の問題を拡大してしまうことがあります。日本経済はまさににそういう状況になっているのではないのでしょうか。

目先の問題とは景気の問題です。現実には30ヵ月の景気の下がが続いているけれども、いずれ上昇に転じる。今の日本には供給余力があるので、景気がよすぎても問題を生じることがありません。それ故、いかにして景気を良くするのかということは供給過剰をいかに対処するかということになります。

本来、経済の問題は基本的にいかにモノを作るかということであって、作れる分だけのモノが使えることができました。需要超過で供給不足が、いつの間にか供給過剰の状態に逆転していました。このような世界はしばらく前のアメリカやさらにその前のイギリスのようにわずかな国しか経験したことはありません。生産力を維持するため企業は必死になり製品を世界中に販売しています。特に、アメリカが輸入をしているから日本は輸出ができる状況です。このような状況は10年間続いています。アメリカは借金でどうにもならない状態になっているので、これからも同じような状況が続くことはありえないと思われま。現在、アメリカが余分に買っている分だけ余分なドルが世界中にばらまかれています。ドルが過剰になりドル安になる可能性があると思います。これなくしてアメリカ問題は解決できないのではないかと思います。しかし、現実にはそれほど下

がっていないので、ドル安の可能性があり世界経済全体が揺れ動く場面が出てくる可能性があると思います。いずれ調整が必要となるはずで、現在のような莫大な輸出を続けることはできず、輸出が減り輸入が増えることを我々は想定しておかなくてはなりません。現在の貿易黒字は12兆円程度ですが、輸出が減ることは日本の基幹産業が打撃を受け、貿易赤字の調整は大きな景気のマイナス要因となります。現在の経済もアメリカに支えられており、貿易赤字の問題はアメリカが破産してしまうという問題になっています。

日本独自の問題としては、20年間にわたり続いている深刻な財政赤字の問題があります。長期国債だけでも200兆円以上になり、金利の支払だけしかできず、これが支払不能になると新たな貸手が現われずに国は破産となってしまいます。日本の一般会計の中で金利支払いの占める比重は15.9%で、これはアメリカの数字(14%)よりも悪い状況にあります。日本で騒がれない理由として、アメリカは需要過剰でありアメリカ政府がさらに需要を創出しているのでインフレ傾向が強まるはずで、現実の物価が上昇していないのは海外から需要に応じた分だけ購入するからで、それが貿易赤字につながっています。よって貿易赤字の解消には、政府の赤字を圧縮して需要を下げるという報道がされているのです。一方日本では、需要を創出して供給過剰の解消に貢献しているので、経済全体では問題はなく、かえって赤字の拡大は景気にとって望ましいことになります。

しかしこの問題を続けた場合には、間違いなく、財政破綻を引き起こすことになります。現在は実質金利が低い状況にあって、金利の支払だけが11兆円以上になっています。高齢化社会がやってきており、このような問題に目をつむってはられない状況にきているのです。21世紀の日本のことを考えると体質改善のために大きな犠牲が必要であり、目先の問題の解決だけでなく将来の発展につなげることが一番必要でないかと思えます。

(編集部注：1994 11/27の講演より要旨抜粋)

# 平成6年度通常総会開催

平成6年11月27日名古屋ヒルトンホテル5階銀扇の間において平成6年度通常総会が開催された。

## 平成5年度経過報告

1. 瑞山会名簿(追録)の発行
2. 瑞山会会報の発行 2回
3. 事業部の活動 平成5年11月3日大学祭他
4. 会議

総	会	平成5年	9月17日	山の畑キャンパス学生会館
代	議	平成5年	9月17日	
理	事	平成5年	4月8日	
			5年	4月22日
			5年	6月10日
			5年	8月26日
			5年	10月21日
			6年	1月13日
			6年	2月8日
30周年実行委員会		平成5年	7月12日	
ゼミナール代表者会議		平成5年	9月17日	

## 瑞山会役員紹介

### 理事

会長： 前田勝昭 1期生(岡崎)

副会長： 近藤常夫 1期生(平田) 多和田 眞 4期生(岡崎) 佐藤克己 8期生(岡崎)

庶務部長： 八木得三 5期生(山本)

庶務部： 渡辺尚泰 3期生(柴田) 杉本 仁 8期生(岡崎) 小笠原幸生 6期生(中居)

荒深美和子 9期生(木村) 倉地弘美 14期生(松永) 木村 剛 17期生(辻)

橋本光生 18期生(醍醐)

編集部長： 手塚祥郎 1期生(牛嶋)

副編集部長： 前田 進 4期生(松永)

編集部： 榊原 茂 1期生(松永) 伊藤幸雄 5期生(妙見) 鈴木正彦 7期生(芝原)

田中喜雄 7期生(岡崎) 寺沢賢治 11期生(牛嶋) 水野 誠 13期生(宮川)

松川倫典 16期生(塩見) 服部篤典 18期生(安藤) 橋本光生 18期生(醍醐)

中村英利 20期生(西田) 石川勇治 21期生(上村) 森本浩二 21期生(中居)

柴田光晴 22期生(神山) 児島和世 22期生(國村)

家田嘉人 26期生(星野) 高山浩之 26期生(國村) 西 理恵 26期生(國村)

事業部長： 逸見和弘 1期生(松永)

副事業部長： 杉浦晴義 5期生(松永)

事業部： 都島忠比古 3期生(山本) 木村新作 5期生(岩橋) 伊藤政明 5期生(柴田)

加藤 実 6期生(宮川) 岡田美津雄 10期生(中居) 村岡範久 15期生(松井)

畔柳 一 19期生(星野) 赤羽廣一 21期生(妙見) 児島完二 22期生(妙見)

石川常彦 23期生(國村)

名簿部長： 中村正治 5期生(木村)

副名簿部長： 伊藤 孝 6期生(山本)

会計部長： 坂野 修 2期生(山本)

副会計部長： 坂野之信 21期生(牛嶋)

会計部： 松坂美枝子 27期生(根津)

理事新任： 中村英利 20期生(西田) 赤羽廣一 21期生(妙見) 森本浩二 21期生(中居)

家田嘉人 23期生(星野) 西 理恵 26期生(國村) 高山博之 26期生(國村)

松坂美枝子 27期生(根津)

### 監事

栗野泰次 1期生(大山) 松原隆二 4期生(中居)

## 平成5年度会計報告

## ●平成5年度決算報告/第16期貸借対照表(平成6年3月31日現在)

借入	金額	貸方	金額
普通現金預金	996,442円	名簿発行引当金	1,600,000円
郵便振替口座	0円	運営発行積立金	11,721,403円
割引金融口座	3,820,000円	預り金	30,000円
貸付借託	6,560,000円		
金銭借託	1,474,981円		
30周年事業会計仮払金	500,000円		
合計	13,351,403円	合計	13,351,403円

## ●平成5年度収支決算書および平成6年度収支予算書

勘定科目	第16期(平成5年度)	第17期(平成6年度)
会費収入		
新入会費	4,500,000円	4,420,000円
その他	0円	20,000円
各部預金利息	6,030円	5,000円
運営基金利息	387,880円	455,000円
運営基金戻入	0円	1,600,000円
その他	寄付金 20,000円	0円
収入計	4,913,910円	6,500,000円
名簿追録発行費	560,446円	800,000円
会報発行費	1,453,112円	1,400,000円
総会費	239,330円	1,300,000円
事務費	1,049,289円	1,000,000円
通信費	38,452円	100,000円
事業運営費	835,165円	900,000円
名簿発行引当金	800,000円	800,000円
予備費	0円	200,000円
その他	0円	0円
支出計	4,975,794円	6,500,000円

## 卒業式・入学式

3月24日に卒業式が行われました。卒業式後、午後4時30分から7時の時間で伏見の名古屋ヒルトンホテル竹の間において卒業謝恩会が開催されました。学長の伊東先生つづいて学部長の宮川先生からの挨拶の後、瑞山会前田会長から成績優秀者5名に瑞山会賞の表彰が行われました。そのほか写真撮影、恩師への花束贈呈、ゲームなどがあり、恩師を囲む思い出に残る会となりました。

入学式は、名市大と看護短大が合同で熱田区の名古屋市教育センターにおいて4月6日に行われました。

社会人大学院では15名が卒業し、17名の新生が入学しました。毎年1～2名は名市大の卒業生が入学しています。あなたも社会人大学院にチャレンジしてされてはいかがでしょうか。

平成6年度 瑞山会賞受賞者(アイウエオ順 敬称略)

内山直人 粥川理早 寶多康弘 田中めぐみ 長谷川裕

橋本光生(18期生)



## オーストラリア留学記

大学院修士課程1年 手嶌 亨(27期生)

平成6年2月から丸1年間、名市大の交換留学生としてオーストラリア、シドニーにあるニューサウスウェールズ大学大学院へ留学をしました。1年間は少し短かったですが、特に西欧の教育について考えさせられることがたくさんありました。

その中で一番日本とやり方が違うのは、西洋側の大学は生徒たちに論文作成において過酷といえるほど徹底的に“リサーチ”をさせることです。半期で4本ぐらいの論文を提出しなければなりませんでしたが、基本的に一つの論文を完成させるために莫大な時間と根気が必要でした。量的には、一つの論文を仕上げるために、10冊以上の分厚い文献を徹底的に読まなければなりませんでした。

実際に私はNSW大学での勉強が“本当に自分のためになった”という納得と満足を得た経験から、日本でももっと生徒に“リサーチ”をさせることから物事を考える機会を与え、しかもゆっくりと時間をかけて問題を解決する教育システムを作らなければならないと思います。まだまだ、日本は経済面以外に生活水準、ライフスタイルや教育のような“豊かさ”について、西洋側から学ぶべきことはたくさんあると思います。



写真 友人達と(前で腕を組んでいるのが筆者)



# 平成7年3月卒業生の就職状況一覽

建設業	14 (3)	その他	6 (1)	その他	5 (1)	公務	23 (13)
清水建設	1 (0)	日本特殊陶業	1 (1)	日立クレジット	1 (0)	国家事務	3 (1)
竹中工務店	1 (0)	愛知	1 (0)	ヒントラルファイナンス	4 (1)	国税専門官	1 (0)
佐藤工業	1 (0)	トヨー工業	1 (0)	運輸	4 (3)	郵政省	1 (1)
東洋建設	1 (0)	サンウェーブ	1 (0)	運輸	29 (7)	厚生省	1 (0)
大日本土木	1 (0)	パロマ	2 (0)	運輸	4 (3)	地方事務	20 (12)
大名建設	1 (0)	卸売・小売業	16 (8)	J R 東海	1 (1)	岐阜県庁	3 (3)
横水ハウスム	2 (0)	卸売業	12 (6)	日本通運	1 (0)	三重県庁	2 (1)
旭化成ホーム	1 (0)	三菱商事	1 (0)	東山	1 (1)	名古屋市役所	6 (3)
三井ホーム	1 (1)	ユアサ商事	1 (0)	郵船航空サービス	1 (1)	岡崎市役所	1 (0)
ダイワパテ産業	3 (2)	阪和興業	1 (1)	通信	8 (1)	稲沢市役所	1 (1)
サカイ創建	1 (0)	日本製鋼所	1 (0)	N T T	5 (0)	尾張旭市役所	2 (1)
製造業	37 (8)	豊田通商	1 (1)	日本移動通信	1 (0)	日進市役所	1 (1)
出版印刷業	1 (1)	日興	1 (0)	朝日コミュニケーション	2 (1)	大垣市役所	1 (0)
シー・イー・シー	1 (1)	サンゲツ	1 (1)	電気・ガス・水道	1 (0)	桑名市役所	2 (2)
化学工業	4 (0)	ホシザキ東海	1 (0)	岐阜ガス	1 (0)	田原町役場	1 (0)
萬有製菓	3 (0)	花川商會	1 (1)	非営利団体	17 (4)	備考	
天野製菓	1 (0)	村川商會	1 (0)	国民金融公庫	3 (0)	<p>(注)</p> <p>I ( ) 内数字は、女子の内数を示す。</p> <p>II 本表は、進路届・就職内定届に基づき自己申告により作成した。</p> <p>III 従って、進路希望調査時に於いて「自営・進学・結婚・帰国・国家試験等」に分類した。</p>	
一般機械器具	2 (0)	スズケン	1 (1)	中小企業金融公庫	1 (0)		
クボタ	2 (0)	日光産業	1 (1)	住宅・都市整備公団	1 (0)	<p>自営 3(0)</p> <p>大学院進学 6(3)</p> <p>留学 3(1)</p> <p>帰国 1(1)</p> <p>国家試験等受験準備の就職せず 9(2)</p>	
電機機械器具	5 (0)	小売業	4 (2)	間易保険福祉事業団	1 (0)		
日立製作所	1 (0)	松坂屋	1 (0)	名古屋港管理組合	1 (0)		
N E C	1 (0)	服部家具	1 (1)	豊橋乾菓取引所	1 (0)		
松下電工	1 (0)	三ツウアパイト	1 (1)	名古屋繊維取引所	1 (0)		
マキタ	1 (0)	ハートランド	1 (0)	名古屋証券取引所	1 (1)		
愛知電機	1 (0)	金融保険業	54 (15)	愛知県信用保証協会	2 (0)		
食品・たばこ	6 (1)	銀行・信託業	28 (1)	岐阜県信用保証協会	1 (0)		
日本コーン・スナック	1 (0)	日本銀行	1 (0)	名古屋信用保証協会	1 (1)		
雪印乳業	1 (1)	第一勧業銀行	1 (0)	J A 愛知中央会	1 (1)		
ヤクルト	1 (0)	東海銀行	4 (0)	愛知県中小企業振興育成会	1 (0)		
宝酒造	1 (0)	大垣共立銀行	4 (0)	愛知県青年センター	1 (1)		
JT日本たばこ産業	2 (0)	十六銀行	3 (0)	サービス業	20 (15)		
繊維工業	1 (0)	百五銀行	1 (0)	教育	2 (2)		
茶産興業	1 (0)	四国銀行	1 (0)	明倫ゼミ	1 (1)		
石油・石炭製品	2 (1)	愛知銀行	3 (0)	ワイ音楽教室	1 (1)		
東海ゴム	1 (0)	名古屋銀行	2 (0)	その他	18 (13)		
ダイセキ	1 (1)	中京銀行	2 (0)	キリックスリース	1 (0)		
鉄鋼業	2 (0)	広島総合銀行	1 (0)	日本トランス・シティ	1 (0)		
トヨタオートセンター	2 (0)	岐阜信用金庫	1 (0)	ニッソウトラベル	1 (1)		
輸送用機械器具	6 (4)	岡崎信用金庫	1 (0)	ダイコク電機	3 (3)		
アイシン精機	1 (1)	豊橋信用金庫	1 (0)	東邦システム	1 (1)		
新東工業	1 (1)	赤穂信用金庫	1 (0)	東海パナソニック	1 (1)		
愛知機械工業	1 (0)	鯖江信用金庫	1 (1)	ヒノリ情報サービス	1 (1)		
トヨタ車体	2 (2)	証券・商品取引	5 (2)	百五銀行システム開発	1 (1)		
フタバ産業	1 (0)	新日本証券	1 (0)	日本電子計算機	1 (0)		
精密機械器具	2 (0)	勸業証券	1 (1)	エー・エム・アイ	1 (1)		
豊和工業	1 (0)	丸万証券	1 (1)	名古屋会計計算センター	1 (1)		
豊丸産業	1 (0)	豊商事	1 (0)	日本土地評価システム	1 (1)		
		入や通商	1 (0)	T K C	1 (1)		
		保険	16 (11)	監査法人AIC	1 (0)		
		東京海上火災保険	5 (5)	監査法人トーマツ	1 (1)		
		安田火災海上保険	4 (4)				
		共栄火災海上保険	2 (1)				
		第一生命	1 (1)				
		住友生命	1 (0)				
		明治生命	2 (0)				
		協栄生命	1 (0)				

## ゼミ協主催による「経済学部学生とOB・OGとの交流会」開催

昨年はじめて行い、参加者に好評だった「経済学部学生とOB・OGとの交流会」が11月11日(金)に経済学部による就職ガイダンスの後、名市大山の畑キャンパス学生会館3階和室にて行われました。3年生と4年生の学生とOB・OGあわせて約40名の出席でしたが、3年生は、就職活動を目前にして、4年生の就職活動についての体験とOB・OGの就職後の両方の話を熱心に聞き、大変参考になったようでした。今回もさまざまな職種の卒業生十数名が参加し、和室のテーブルを囲んで軽い食事をとりながら学生からの不安に答えたり、仕事についての話をしたりと後輩のために大いに語っていただきました。

最後に、瑞山会会長の前田勝昭氏にご挨拶していただき、日本経済と企業人のありかたについてお話をいただきました。

名市大では経済学部の行う就職ガイダンスについても、就職状況に詳しいOBの意見を充分に取り入れ、内容も工夫することで非常に充実したものになり、名市大の特徴にもなっています。

大変、厳しい就職状況のなかにあっても、名市大の就職の状況は他大学にくらべてよいように思われます。ゼミナール協議会と瑞山会が協力して、学生とOB・OGの間をつなぐことで、厳しい中でも学生の就職活動に大いに役にたてると思います。

(橋本光生 18期生)

### ●事業部だより●

第3回目の行事となる山崎川花見と茶会の催しが、さる4月2日(日)に薬学部同窓会館を利用して行われました。開花宣言以来寒い日が続き、桜も三分咲き程度でしたが、当日は穏やかな天気恵まれて、まずまずの出足と出会いがあったように見受けられました。三学部共同の行事ですので、思わぬ人の参加もあって楽しいものでした。中でも柴田清人元学長の御出席にはスタッフ一同感謝の気持ちで一杯でした。来年も4月第1日曜日(4月7日)に開催しますので、是非ご参加下さい。

また、4月22日第25回名市大OBゴルフコンペが、東名CCにて行われました。毎年5月3日には山の畑テニスコートで硬式テニスの会が行われます。

9月3日(日)には犬山モンキーパークで野外バーベキューを行います。いずれも卒業生の皆様及びご家族の皆様の参加自由ということで企画していますので、お気軽にご参加ください。毎回ご案内しています大学祭模擬店OBコーナーも、例年通り11月3日を予定しています。各模擬店でご利用できる金券を会場でお渡しますので、ご家族、お友達をお誘いの上お出掛けください。また1月にはスキーツアーを行いたいと考えています。詳細

につきましては、次回会報にて案内する予定ですので、記事にご留意ください。またご不明な点はお気軽に事業部(逸見/052-914-6221)までご照会ください。

#### バーベキューの集いご案内

今年も、瑞山会の夏の行事にバーベキューパーティーを開催いたします。

参加をご希望の方は8月20日までに同封の葉書にてお申し込みください。

日時：平成7年9月3日(日)12時現地集合  
(雨天決行)

場所：日本モンキーパーク内デーキャンプ場

交通：名鉄犬山遊園地駅からモトルで4分

参加費：入園料金のみ(各自入園券を購入し、上記場所へ集合してください。)



# 報 告

## 追悼

名古屋市立大学名誉教授・元京都大学教授山本安次郎先生は昨年12月14日午前6時49分に御逝去。享年九十才。



先生がお亡くなりになる4日前の病室で、先生は今年出版予定の「経営発展論」(教え子らとの共著)の原稿の集まり具合と原稿全体の微調整の必要性を気にされていた。そして、話しは次の出版へと向かった。

それは事業発展のメカニズムを理論的に体系的に解明することであった。これで初めて山本経営学が完成する。「正月明けには退院できるだろう」と言っておられた。そしてお亡くなりになれる五、六時間前、先生は「もう駄目だ。林君、頼むよ」と言って、約三十年間指導した、一介の教え子の私に手を合わされた。

こんなに悲しいことはなかった。先生は極めて意思が強く、独立独歩の気丈な人だっただけに。

人は大往生されたとか天寿を全うされたと言う。私はそうは思わない。先生はまだやらねばならぬことのため残念で残念でたまらなかったことと思う。

私に与えられた最後の課題を達成すべく、私の研究生生活は続く。

日本経営学会、組織学会、経営学史学会の創立者の一人であった先生の急逝が惜しまれて、悔やまれてならない。

合掌

青山学院大学経営学部

林 伸二(2期生)

## 学部人事異動

### ●平成7年3月31日退職

教授 岩橋亮輔(経済理論)  
教授 大路雄司(経済政策Ⅰ)  
助教授 籠谷直人(経済政策Ⅰ)  
助教授 北坂真一(経済理論)

### ●同年4月1日採用

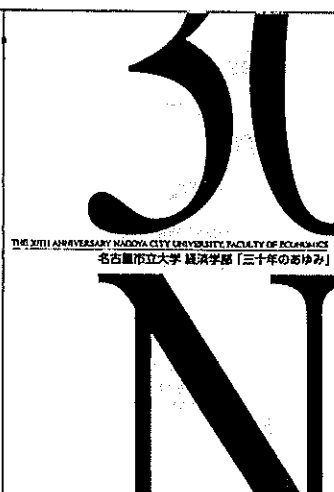
教授 福地崇地(口座外 研究所設立準備)  
講師 田中 彰(経済政策Ⅰ)  
助手 河合篤男(経営学)  
助手 後藤尚久(経済政策Ⅰ)  
助手 三井 栄(経済理論)

### ●同年4月1日異動

教授(助教授より) 安藤金男(経済理論)  
教授(助教授より) 井上泰夫(経済理論)  
助教授(講師より) 櫻川昌哉(経済政策Ⅱ)

## 30年のあゆみ追加頒布のおしらせ

30年のあゆみをひきつづき頒布しています。30年のあゆみを昨年11月に発行しましたが、同窓生をはじめ多くの方から好評を得ていますので、今回同窓生を対象に、頒布を再開することになりました。30年のあゆみをご希望の方は、30周年記念事業寄付金1口10000円以上ご協力ください。瑞山会報に同封し



ました郵便振替用紙での寄付金のご送金もちまして30年のあゆみの申込みとさせていただきます。残数に限りがありますので、先着順にあゆみを郵送します。できるだけ早くお申し込みください。

## 岩橋亮輔教授の最終講義

平成7年(1995年)3月をもって、岩橋先生が定年退職されました。岩橋先生は昭和36年(1951年)4月に本学の教養部に赴任され、その後昭和42年(1967年)4月に経済学部に移転され、34年の長きにわたって名古屋市立大学で教鞭を執ってこられました。

先生は、教養部時代には「数学」を担当され、経済学部に移ってからは「統計学」を中心に「経済数学」等の理論系の科目を講義されました。先生は経済学部設立以前から本学で教鞭を執っておられたわけであり、本学経済学部の卒業生は全員が何らかの形で、先生のお世話になっていることとなります。

岩橋教授の最終講義は2月2日の午後1時より行われ、宮川学部長の挨拶、宮原教授の経歴紹介に続き、「私と統計学 etc.」の題名で岩橋先生が講義をされました。学部学生、大学院学生、経済学部および教養部教職員等多くの聴衆を前に、数学と統計学の研究のこと、数学と経済学をどのように結びつけて研究してこられたか、現在手掛けれられつつある数理経済学の問題の紹介、などを、34年間にわたる研究・教

育の思い出を交えて話されました。大変に興味深く、また教訓に富むお話でした。

先生のお話の後、学生の代表としてゼミの学生および大学院の留学生から、感謝の気持ちを込めて花束が贈られ、最終講義は終了いたしました。

なお、大学の行事とは別に、岩橋ゼミOBの主催による「岩橋教授退官記念祝賀会」が3月18日に名古屋キャッスルにて盛大に行われたことも報告しておきます。

(経済学部教授 宮原孝夫)



## 経済学部創立30周年記念公開シンポジウム開催

本年2月4日、わが経済学部創立30周年を記念する「公開シンポジウム」が中区役所ホールで開催された。同シンポジウムは「これからの企業にはどんな人材が必要か」というテーマのもとに、パネリストとして、トヨタ自動車副社長の磯村巖氏、国際日本文化研究センター教授の西田経夫氏、そしてコーディネーターとして中日新聞論説主幹の田村新次氏を迎えて

開かれ、会場には前もって入場を申し込んでいた400名以上の聴衆が詰めかけた。

シンポジウムに先立ち、宮川淳経済学部長からの挨拶ならびにパネリストとコーディネーターの紹介があり、そのあと直ちにシンポジウムに入った。シンポジウムでは、まず西田教授が課題提起者として論理的に自説を展開され、それに対して他の2名のパネリストが所見を述べ、それに受けてコーディネーターの田村氏が適当に交通整理をしながら、3者の間でさらに活発に討論がなされた。西田教授の真摯で建設的な問題提起に対して、磯村氏からは現場の経営者の立場から慎重な発言がなされ、飯田氏は若干斜に構えたコメントが目立った。ともあれ、400名を超える聴衆は最後まで席を立たず熱心に聞き入っていたので、成功と言えよう。なお、小生は30周年記念実行委員として当日の進行役をつとめた関係で本文を書かされるはめとなった次第である。

(経済学部教授 内藤能房)

